

# お釈迦様のご生涯



早良組  
だより



早良組 教善寺蔵

2月15日は「涅槃云」といって、お釈迦様が涅槃に入られた、つまりこの世の命を終わっていかれた日です。その様子を描いている絵を「釈迦涅槃図」といいます。沙羅双樹の下、頭を北にし、お顔を西方の浄土に向けて横たわっておられるお姿。そのお釈迦様を取り囲んで菩薩・天部・弟子・大臣の他、鳥獣までが嘆き悲しんでおります。中には虫やら、みみずまでも描かれた涅槃図もあります。この涅槃図について、かつて我が師・深川倫雄和上に「鳥やら獣やら、その上虫までも描くというのは何とも大袈裟ですね」と言ったことがあります。その時和上が「あんなあ、せいぜい健康に気をつけてあと2万年ほど長生きをすればいいよ。そしてたらなあ、もしかしたらその方の命の終わりにあたって鳥や獣・虫達までもが這い出して

## 「忘れられない言葉」 (釈迦涅槃図に思う)



きて、その方の命の終わりを嘆き悲しむような、そのような人格をもったお方に巡り合うことができるかもしれんよ。お釈迦様はそんな方だったんだよ。なぜあんな方だったのか。考えんのか。まだ自分の賢げな頭を誇りたいのかねえ。」と、言われたのです。この一言が私にとって忘れられない言葉となりました。人は自分の頭脳を誇りがちです。この目で見えないものは無いもので、この頭で理解できないものは嘘か自分に必要ないものと決めつけるのです。でもいよいよ命終わるときには、この鍛え上げた頭脳は何の役にも立ちません。全ての命あるものたちが、そのお別れを悲しんだというお釈迦様の言葉を真実として聞かせてもらおうとき、この世界は尊い仏法との出遇いの場であったと気付かされるのです。

徳常寺住職 紫藤常昭



## 報恩講スタンプラリー



10ヶ寺以上お参りの方は、3月末までにお寺まで

今年で3年目の開催となります「報恩講スタンプラリー」。今年も沢山の方にご縁に遇っていただき、賑やかな報恩講となりました。

10ヶ寺以上お参りされた方は、表彰式にて記念品をお渡しいたしますので、3月末までにお手次のお寺様までスタンプ台紙をお持ちください。表彰式は6月4日(火)11時より重留の真正寺にて行う予定です。

## 早良組オリジナル ポロシャツ[長袖]

今年度も早良組オリジナルTシャツをご購入いただきありがとうございます。売り上げの一部は熊本地震災害義援金として熊本教区に納めさせていただきました。

そして今年のご要望が多かった長袖ポロシャツを製作いたします。後日ご案内させていただきますのでご協力よろしくお願いいたします。



## こども報恩講



12月26日(木)梅林の菩提寺にて、こども報恩講を行いました。お勤めとご法話の後には、「もちつき」と「プラネタリウム鑑賞」でした。66名のこどもたち、保護者とスタッフを含め100名以上で楽しく活動しました。



行事案内 3月26日(火)10:00～ 西入部の西音寺にて「花まつり」を行います。お念珠作りを中心に活動します。  
7月23日(火)～25日(木) 早良組児童念仏奉仕団(2泊3日@京都)を行います。(詳細は4月以降にご案内予定)

## 門信徒のつどい

「博多から来ました」  
築地で会いましょう

「第2回 関東在住 門信徒の集い」を平成31年6月29日(土)築地本願寺にて開催いたします。福岡から離れたご門徒や、そのご家族の方々のご縁を大切にしたいと考えております。築地本願寺にて共に手を合わせ、ご一緒にお念仏を申させていただけますでしょう。

懐かしいふるさとの言葉を聞いて、「ふるさとのぬくもり」を感じませんか。ご家族、ご兄弟姉妹、ご友人、お誘いあわせの上、気軽にご参加ください。是非多くの方々のご参加をお待ちしております。



# お釈迦様のご生涯

今から約2500年前、インド北部(現在のネパール)で釈迦族の王子として生まれたゴータマ・シッダールタ。後に悟りをひらき、真理にめざめた人「仏陀」、また親しみを込めて「お釈迦様」と呼ばれています。仏陀の教えがすなわち「仏教」であり、その教えは弟子たちがまとめた経典によってインド・中国を経由し日本へと伝わりました。

よく阿弥陀様とお釈迦様は同じ方かと尋ねられる事がありますが、阿弥陀様は救い主で、お釈迦様は教え主です。お釈迦様は実在のお方で、救い主である阿弥陀様の法を私たちに分かりやすくお説き下された方です。

私たち浄土真宗の念仏者は帰敬式を受け、法名をいただき釈尊の弟子として、仏教徒としてお念仏をいただき、日々を送っています。改めて、仏教の教えとは、仏教がどのようにして起こっていったのかを知るべく、お釈迦様の80年のご生涯をたどっていきます。

## 1 誕生

お釈迦様は今から約2500年前の4月8日、ルンビニーの花園(現在のネパール)で釈迦族の王子として誕生されたと伝えられています。父は浄飯王・母は摩耶夫人です。しかし母は、お釈迦様誕生から7日後に亡くなってしまいます。

仏伝などによれば、お釈迦様は生まれるとすぐ七歩あるいて天と地を指さし、「天上天下、唯我独尊」と高らかに叫ばれ、天は感動して甘露の雨を降らせたといわれています。



「ルンビニー」



「花まつり」4月8日  
現在でも甘茶をかけてお釈迦様の誕生をお祝っています。

## 2 出家

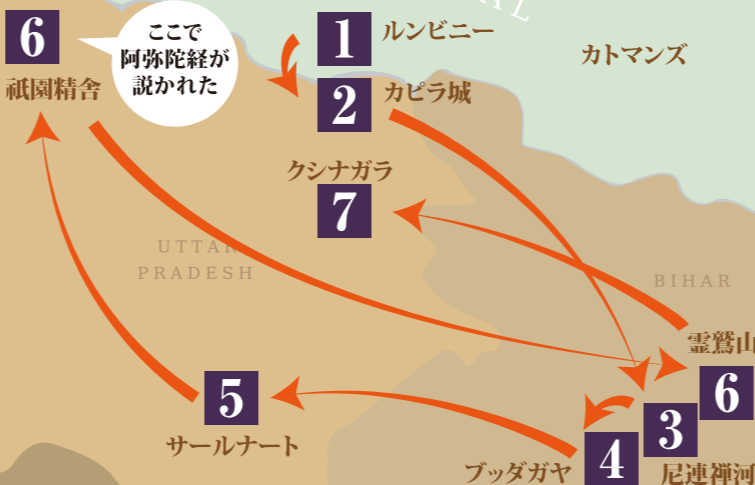
お釈迦様は幼い時から学問や武芸に優れた才能を発揮しますが、とても感受性が強く、ものごとを深く考える性格に育つてゆかれました。若き日の東南西北4つの城門から出たときに(四門出遊)、老人・病人・死者・修行者と出会い、さらに苦悩を深めてゆかれ、ついに地位や財産を捨てて出家されます。お釈迦様29歳の時です。



「カピラ城」  
お釈迦様が住んでおられた城跡

## 3 修行

苦行を積み重ね、その先に目指す悟りがあると考え、6年にわたり肋骨が浮き出るほどに厳しい修行の日々を送りました。



6 祇園精舎  
ここで阿彌陀経が説かれた

## 4 成道



「釈迦苦行像」

その後、尼連禪河のあたりで、村娘スジャータの差し出す乳粥を飲み、体力を回復させ、菩提樹の下で瞑想に入りました。様々な誘惑や欲望な

## 5 説法

成道ののち、お釈迦様はすぐには説法なさらず、共に苦行に励んだ修行仲間達にまず法を説きたい、とお考えになりました。

そしてブッダガヤの地から直線にしてはるか200キロ以上離れた鹿野苑(サルナート)の地へ、七日がかりで歩いて赴かれたのでした。その地で初めて説法をなさった事を、法の車輪が転がり始めたというところで初転法輪と言います。ここでお釈迦様が法の真実を言葉にして説法なさったからこそ、今、私のところまでみ教えが届いて下さったのです。



「ブッダガヤの大塔」

どの苦難を打ち破り、ついに悟りをひらかれ、仏陀とられました。お釈迦様、35歳の時でありました。この日(12月8日)を成道会といわれています。

## 6 伝道



「サルナート」

初転法輪以後も、弟子たちとともに、北インドのガンジス河中流域を中心とした各地を約45年にわたり歩きまわられながら、たくさんの人々に伝道を続けられました。経典には、しばしばお釈迦様が1250人と数えられたことが記されています。それぞれの人が合せて説かれた説法(対機説法)により、法のもとしびを広め続け、迷い苦しむ人々を安らぎへと導きました。



「霊鷲山(山頂)」(ラジギール)  
ここで無量寿経と観無量寿経が説かれた。

## 7 涅槃

故郷にむかう旅の途中、施された食事が原因で激しい下痢となられます。頭を北、右脇を下にしたお姿で横になられ、最後はたくさんのお弟子たちや信者の涙の中、2月15日に80歳にてご生涯を閉じられました。入滅の際、「私なき後、自らをまた法をたより生きていきなさい」と自灯明法灯明を説かれました。

お釈迦様の死は「入滅」または「涅槃」と呼ばれます。煩惱の火が消え、智慧が完成した悟りの境地を「涅槃」といいます。約2500年後の現在でも、お釈迦様が入滅された日を御縁として涅槃会が勤められています。



「クシナガラ」涅槃の地



「涅槃堂内部」

## あとがき

平成30年2月21日から8日間、早良組有志法中と門信徒、22名で仏跡地(インド・ネパール)を参拝してきました。

どこも感動の連続でしたが、特にお悟りを開かれた成道の地(ブッダガヤ)の高さ52メートルの大塔や、大きく葉を茂らせた菩提樹を目の当たりにした時、なんとも言えない気持ちになりました。

2500年の時を経て、今私のところに届いてくださるお念仏を喜び、ただただ称名させていただきます。



「ブッダガヤの大塔の前にて」  
ここには世界中から多くの仏教徒が訪れます。